

# 「ハルマ」で戦争する国に変貌

安保の文書の問題はさておき、「軍事費の拡大」と「増税」が問題視されるわりに、敵基地攻撃と先制攻撃まで可能にして、「専守防衛」の仮面を脱ぎ捨てたことへの反発が弱い。

再び戦場になるのではないかと危惧する沖縄から見れば、今回、同盟国や同志国と共に日本が主体となって侵攻する敵とたたかう

映画監督・沖縄在住  
**三上 智恵さん**

と宣言したことは恐怖です。安倍政権がつづいた「戦争でもある国」は賛成権、廢止権と進んで「ここで戦争する國へ」と変貌しました。

そしてすでにミサイル拡充化

が進む沖縄県だけは想定より予算がつけられました。那覇の陸上

自衛隊師団化と司令部の地下化に3億円。自衛隊那覇病院の地

下化、建て替え検討に1億円。

沖縄市の自衛隊弾薬庫新設に2億円。与那国島の電子戦部隊新設に38億円。新たなミサイル部隊の用地取得費未公開……。また「ここで戦争しますよ」と書わんばかりです。

防衛省は敵基地を攻撃可能な「スタンダード・オフ・ミサイル」も保管できる大型の弾薬庫を大分分屯地と青森県の海自大湊地方總監部に、奄美・横須賀・舞鶴にも弾薬庫を新たに整備するといいます。

**軍事費拡大実現あり**

有事に組織的なたたかいを継続する能力を確保するなどのために5年間で43兆円かけて持久戦に耐えうる列島に変貌しているのです。本土も対岸の火事ではありません。

